

〔青森県立高等学校将来構想検討会議第1分科会（第2回）資料〕

各学科等の現状について
（設置状況、志望状況、進路状況等）

平成26年9月10日

青森県教育委員会

目 次

1	普通科等〔全日制〕	1
(1)	普通科の概要	1
(2)	高等学校グランドデザイン会議における答申（平成19年10月）	1
(3)	県立高等学校教育改革第3次実施計画における基本的な考え方	1
(4)	普通科等の状況	2
2	職業教育を主とする専門学科〔全日制〕	7
(1)	高等学校グランドデザイン会議における答申（平成19年10月）	7
(2)	県立高等学校教育改革第3次実施計画における基本的な考え方	7
(3)	農業科の状況	8
(4)	工業科の状況	10
(5)	商業科の状況	12
(6)	水産科の状況	14
(7)	家庭科の状況	16
(8)	看護科の状況	18
3	総合学科〔全日制〕	21
(1)	総合学科の概要	21
(2)	高等学校グランドデザイン会議における答申（平成19年10月）	21
(3)	県立高等学校教育改革第3次実施計画における基本的な考え方	21
(4)	総合学科の状況	22
4	定時制課程・通信制課程	24
(1)	高等学校グランドデザイン会議における答申（平成19年10月）	24
(2)	県立高等学校教育改革第3次実施計画における基本的な考え方	24
(3)	定時制課程の状況	25
(4)	通信制課程の状況	26
5	普通科及び普通科系の専門学科、職業教育を主とする専門学科、 総合学科の割合（学科構成）について〔全日制〕	28
(1)	高等学校グランドデザイン会議における答申（平成19年10月）	28
(2)	県立高等学校教育改革第3次実施計画における基本的な考え方	28
(3)	県全体の配置状況	29
(4)	各地区の配置状況	30

1 普通科等〔全日制〕

(1) 普通科の概要

普通教育を主とする学科。国語、地理歴史、公民、数学、理科、保健体育、芸術、外国語、家庭、情報などの教科・科目を中心に学習する。

(2) 高等学校グランドデザイン会議における答申（平成19年10月）

次の事項を重視して、再編整備や教育内容の更なる充実を図る必要がある。

- i 基礎的・基本的な学力の定着に一層努めるとともに、大学等進学志望者の増加に対応し、発展的な学習を通じて応用力を身につけさせるなど、学力の向上を図る。
- ii 普通科系の専門学科・コースについては、社会の変化や普通科に学ぶ生徒の多様化に対応するため、各学科の特色を生かした教育課程の編成と指導の工夫に一層努め、教育内容の充実を図る必要がある。ただし、複数年にわたり志願者が定員に満たない場合などには見直しをする必要がある。
- iii 目標を持って学習や諸活動に取り組み、主体的に進路を選択できる能力や態度を育成するため、将来の社会的・職業的な自立を視野に入れた教育活動の一層の充実を図る。

なお、普通科の全日制単位制については、この制度をより効果的に機能させるため、生徒の主体的な学習を促すガイダンス機能の充実や、大学等進学志望に合致した教育課程と指導の一層の充実を図る必要がある。また、今後の新たな導入については、これまで導入された学校の状況を参考にしながら検討する必要がある。

(3) 県立高等学校教育改革第3次実施計画における基本的な考え方

ア 基礎的・基本的な学力の定着と、進路志望の達成を目指した発展的な学習を通じて、応用力を身に付けさせるなど学力の向上を図ります。

イ 普通科系の専門学科・コースにおいて特色を生かした教育内容の充実を図ります。

ただし、複数年にわたり志願者が定員に満たない場合などは、社会や生徒のニーズを踏まえて見直しを検討します。

ウ 主体的に進路を選択できる能力や態度を育成するため、将来の社会的・職業的な自立を視野に入れた教育活動の充実を図ります。

(4) 普通科等の状況

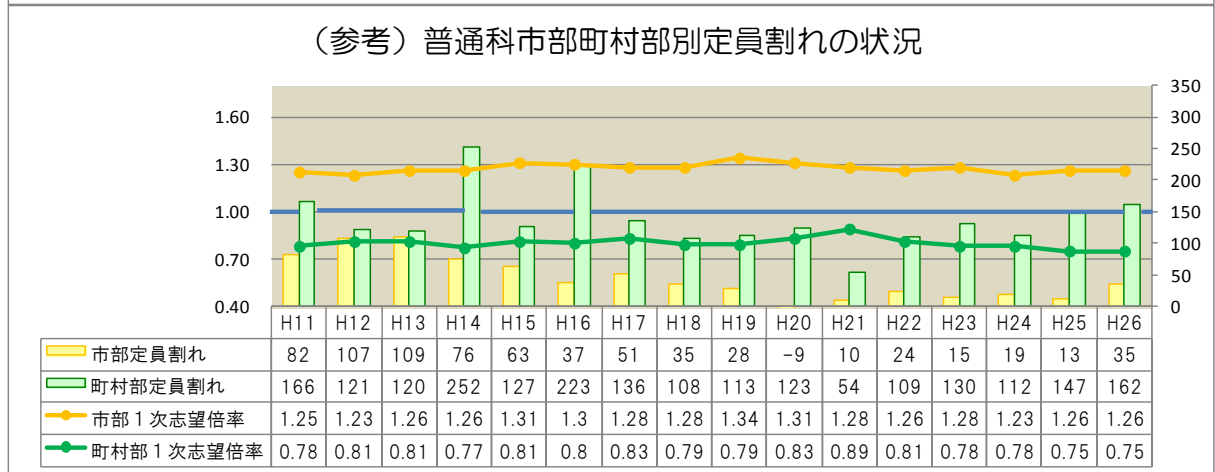
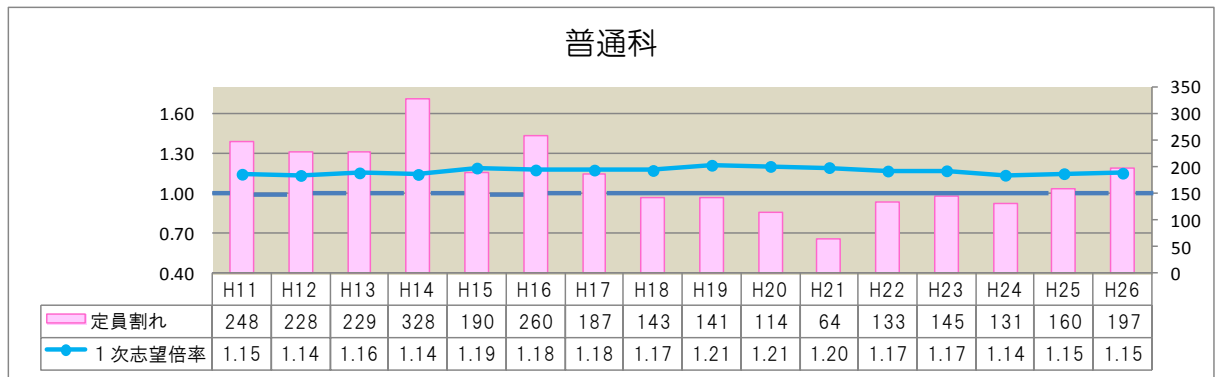
① 県立高等学校教育改革第3次実施計画における実施状況 (H26年度まで)

学校名	改編前の学科名	改編後の学科名	実施年度	備考
七戸・八甲田	普通科	—	H21	募集停止 (H22年度末閉校)
青森西	人文科	—	H22	普通科に転換
弘前中央	人文科	—	H22	普通科に転換
三本木	理数科	—	H22	普通科に転換
青森戸山	普通科	—	H23	募集停止 (H24年度末閉校)
	美術科			
弘前南・大鰐	普通科	—	H23	募集停止 (H24年度末閉校)
八戸南	普通科	—	H23	募集停止 (H24年度末閉校)
田名部・大畑	普通科	—	H25	募集停止 (H26年度末閉校予定)
五所川原	理数科	—	H26	普通科とくくり募集

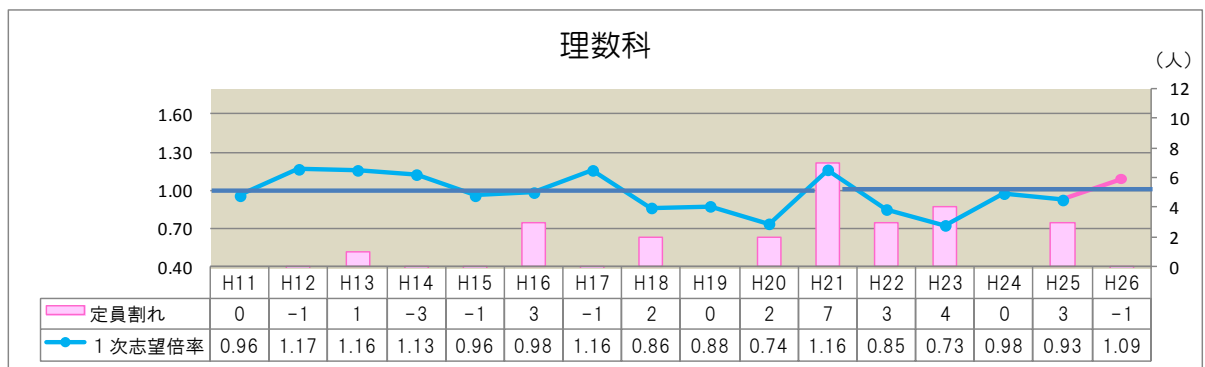
② 平成26年度現在の設置状況

学科等		東青	西北	中南	上北	下北	三八	
学年制	普通科等	普通科	青森 青森西 青森東・平内 青森北 青森北・今別 青森南 浪岡	五所川原 金木 鱒ヶ沢 板柳 鶴田 中里	弘前 弘前中央 岩木 黒石	三本木 十和田西 三沢 野辺地 六戸 百石 六ヶ所	田名部 田名部・大畑 大湊・川内 大間	八戸 八戸東 八戸北・南郷 八戸西 三戸 五戸 田子
		理数科		五所川原				
		英語科				三沢	田名部	
		外国語科	青森南					
		スポーツ科学科	青森北		弘前実業			八戸西
		表現科						八戸東
単位制	普通科	青森東		弘前南			八戸北	

③ 普通科等の志望状況

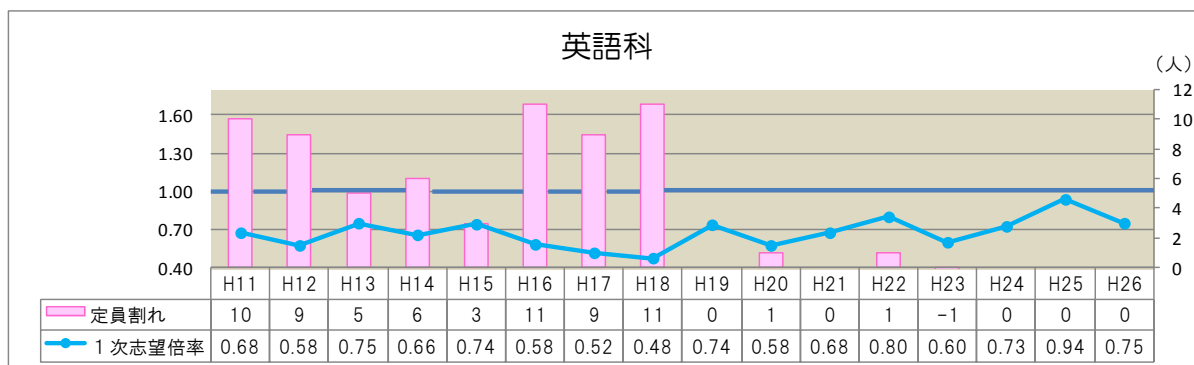


普通科は、毎年1次志望倍率が毎年1倍以上ある一方、定員割れも続いている。
市部・町村部別では、町村部の学校で1次志望倍率が1倍を下回り、また、定員割れが大きい。

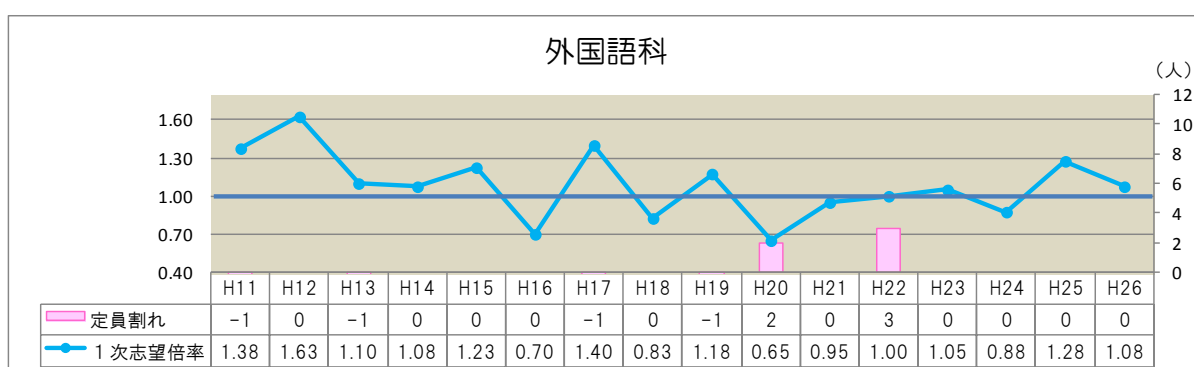


※H26より普通科とくくり募集を実施

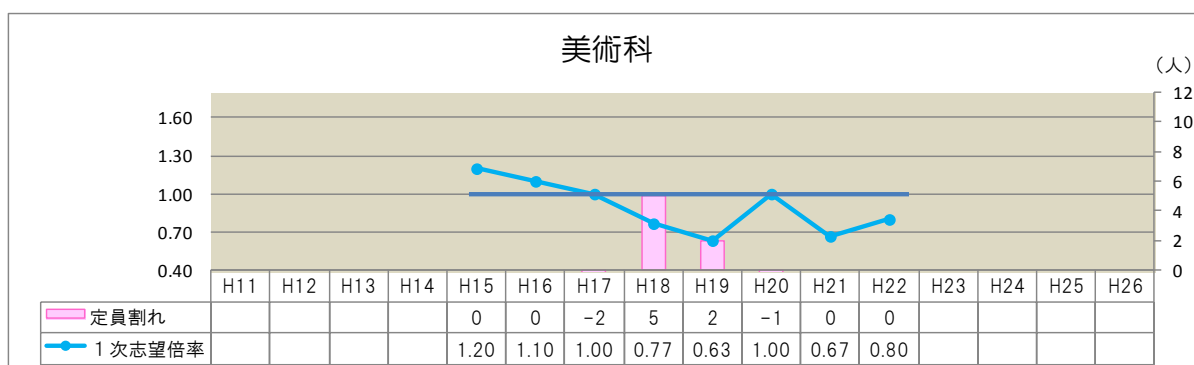
理数科は、1次志望倍率が近年1倍を下回る傾向にあったが、平成26年度からくくり募集を実施した結果、五所川原高校全体としては、1次志望倍率が1倍を超えている。



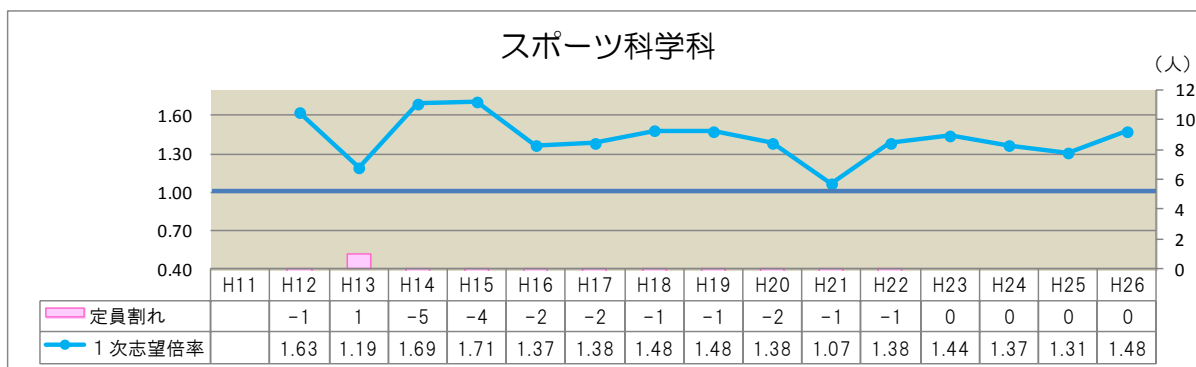
英語科は、1次志望倍率は1倍を下回るが、近年においては、定員割れがほとんどない状態となっている。



外国語科は、例年1倍程度の1次志望倍率となっており、定員割れはほとんどない。

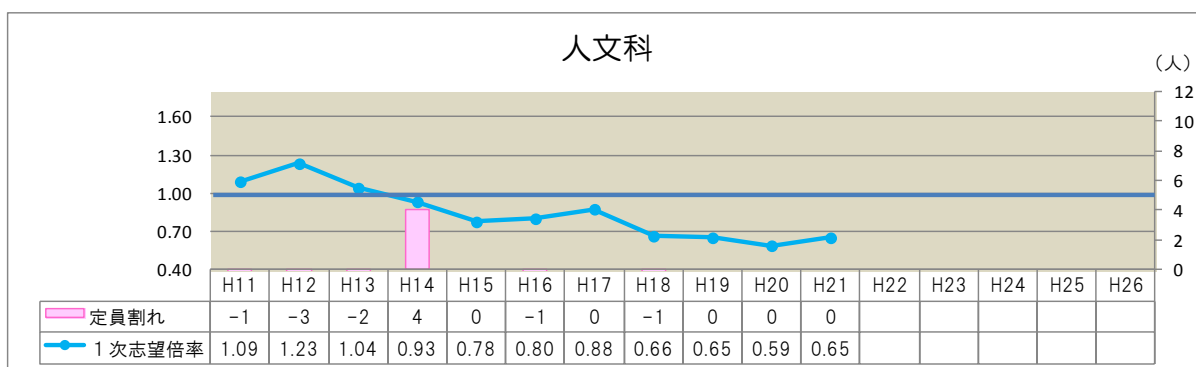


美術科は、平成15年度に設置した。平成18年度以降、1次志望倍率が1倍を下回った。平成23年度に設置校の青森戸山高等学校と合わせて募集停止した。
 (美術に関する教育内容は、青森中央高等学校の美術系列において実施している。)

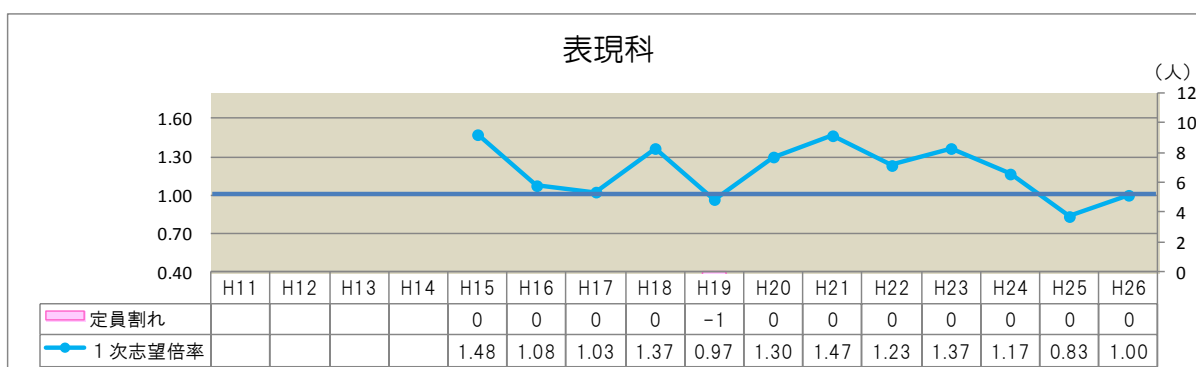


スポーツ科学科は、平成12年度以降、設置した。1次志望倍率は常に1倍を超えており、空き定員もない状態が続いている。

普通科系の専門学科の中では、最も志望倍率が高い。



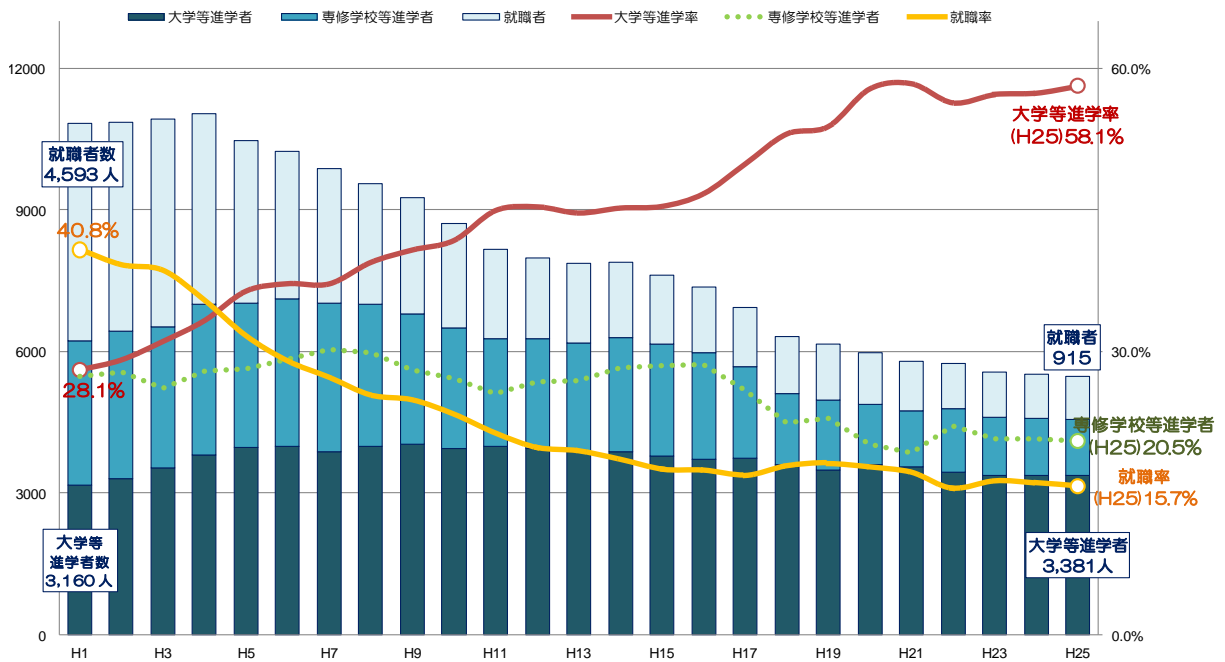
人文学科は、平成14年度以降、1次志望倍率は1倍を下回っていたが、定員は満たした状態だった。平成22年度に募集停止し、普通科に転換した。



表現科は、平成15年度に設置した。1次志望倍率は1倍を下回る年度もあるが、定員割れはない。

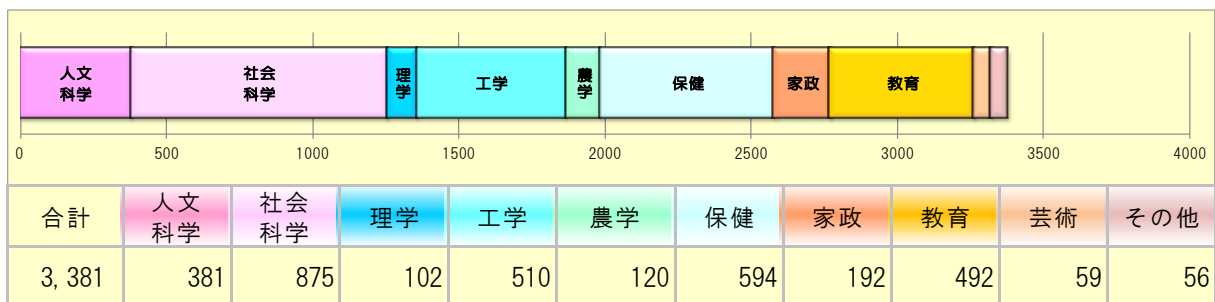
④ 普通科等の卒業後の進路状況

県立高校卒業者の進路状況(普通科等)



<平成25年3月卒業者のうち、大学等進学者の状況>

(人)



大学等進学が最も多く、近年では専修学校等進学者、就職者の割合はほぼ横ばいとなっている。

2 職業教育を主とする専門学科〔全日制〕

(1) 高等学校グランドデザイン会議における答申（平成19年10月）

次の事項を重視し、再編整備や教育内容の更なる充実を図る必要がある。

- i 各専門分野における基礎・基本を重視した教育の一層の充実を図るため、これまで専門化・細分化してきた学科について、生徒の志願・入学状況、進路志望、地域の産業動向を踏まえながら再編整備を進める。
- ii 地域産業を担う将来のスペシャリストを育成するため、地域の関連企業や大学・研究機関等との連携した取組を推進し、地域産業への興味と関心を高めさせるとともに、大学等進学や資格取得等に対応する教育内容の充実や指導方法の改善を図る。
- iii 主体的に進路を選択できる能力や態度を身につけさせるため、インターンシップや起業・創業の視点に立った実践的教育等を通じて望ましい職業観・勤労観の育成を図る。
- iv 入学後の学科のミスマッチなどに配慮し、柔軟な学科選択に対応するため、学校の実情に応じてくくり募集を導入できるようにする。

(2) 県立高等学校教育改革第3次実施計画における基本的な考え方

- ア 知識・技術の高度化、多様化に対応するため、各専門分野における基礎・基本を重視した教育内容の充実を図るとともに、産業社会の変化などに対応し、これまで専門化・細分化してきた学科について、生徒の志願・入学状況、進路志望、地域の産業動向を踏まえながら再編整備を進めます。
- イ 地域産業を担う人材を育成するため、地域の関連企業や大学・研究機関等と連携した取組を推進します。
- ウ 大学等進学や資格取得等に対応した教育内容の充実や指導方法の改善を図るための取組を推進します。
- エ インターンシップや起業（創業）の視点に立った実践的教育等の充実によって、望ましい職業観・勤労観の育成を図ります。
- オ 高校入学後に、柔軟な学科選択が可能となるよう、学校の実情に応じて、くくり募集を導入します。

(3) 農業科の状況

① 農業科の概要

農業の各分野に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、農業の社会的な意義や役割について理解させるとともに、農業に関する諸課題を主体的、合理的に、かつ倫理観をもって解決し、持続的かつ安定的な農業と社会の発展を図る創造的な能力と実践的な態度を育てることを目指す学科。

② 高等学校グランドデザイン会議における答申（平成19年10月）

農業従事者の減少・高齢化、生産技術の高度化、グローバル化の進展に伴う国際的食糧事情の逼迫等大きな変化に直面している。また、農用地の利用集積が推進され、農業経営の規模拡大が進み、収益性の高い企業的経営など多様な農業経営の展開が進展しつつある。

このため、農業に関する学科では、農業の各分野に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させるとともに、農業分野における望ましい価値観や勤労観を有し、地域の農業の担い手となる人材及び地域づくりや環境保全等に貢献し、広く社会で活躍できる人材を育成する必要がある。

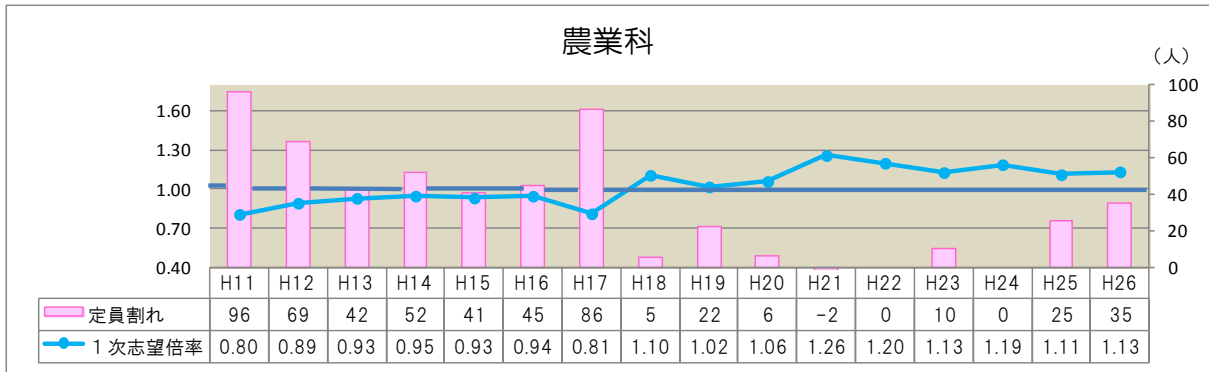
③ 県立高等学校教育改革第3次実施計画における実施状況（H26年度まで）

学 校 名	改編前の学科名	改編後の学科名	実施年度	備 考
五所川原農林	林業科	森林科学科	H22	森林の育成のほか、森林環境保全や林産資源活用について学習
	農業土木科	環境土木科	H22	農業土木のほか、地域環境の創造や保全等について学習
	食品化学科	食品科学科	H22	食品の製造・分析・管理及び流通に関する知識、技術について学習
三本木農業	農業土木科	環境土木科	H22	農業土木のほか、地域環境の創造や保全等について学習
名久井農業	生活科学科	—	H21	募集停止
	—	環境システム科	H25	都市近郊農業に対応し、施設園芸の生産・経営及び生産設備について学習

④ 平成26年度現在の設置状況

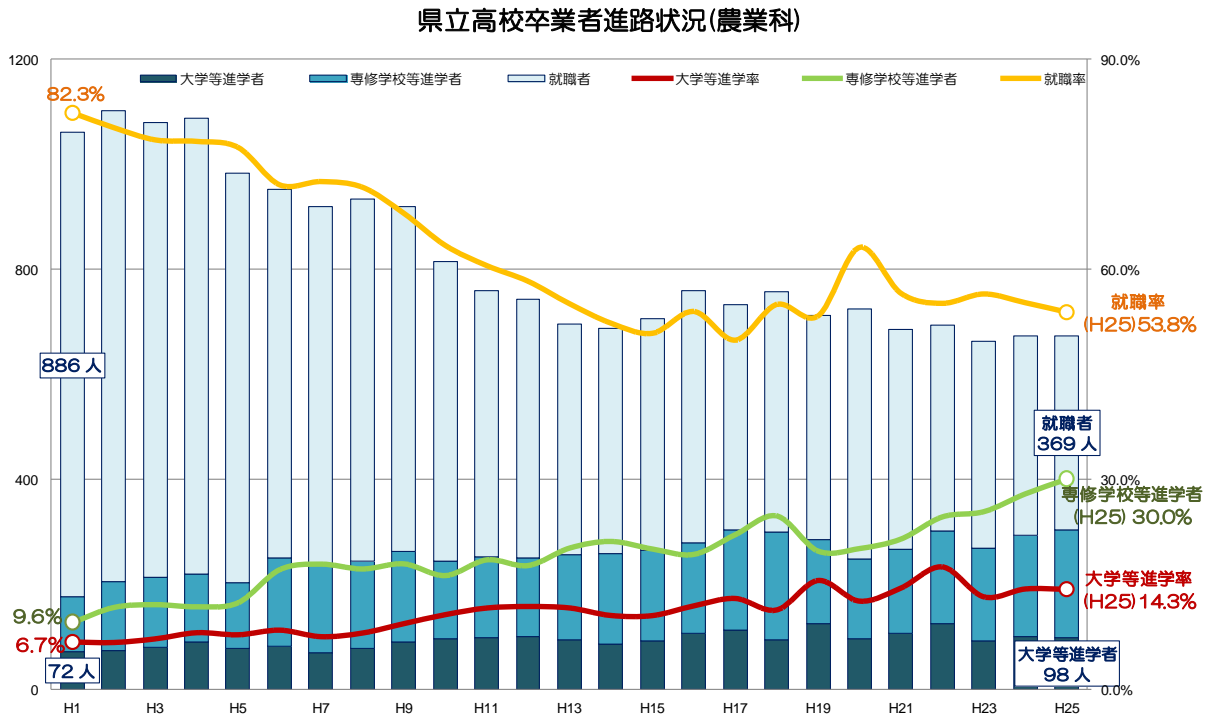
東青	西北	中南	上北	下北	三八
	五所川原農林	柏木農業	三本木農業		名久井農業
	生物生産科	生物生産科	植物科学科		生物生産科
	森林科学科	環境工学科	動物科学科		園芸科学科
	環境土木科	食品科学科	農業機械科		環境システム科
	食品科学科	生活科学科	環境土木科		
	生活科学科	弘前実業	農業経済科		
		農業経営科	生活科学科		
		弘実・藤崎			
		りんご科			

⑤ 農業科の志望状況

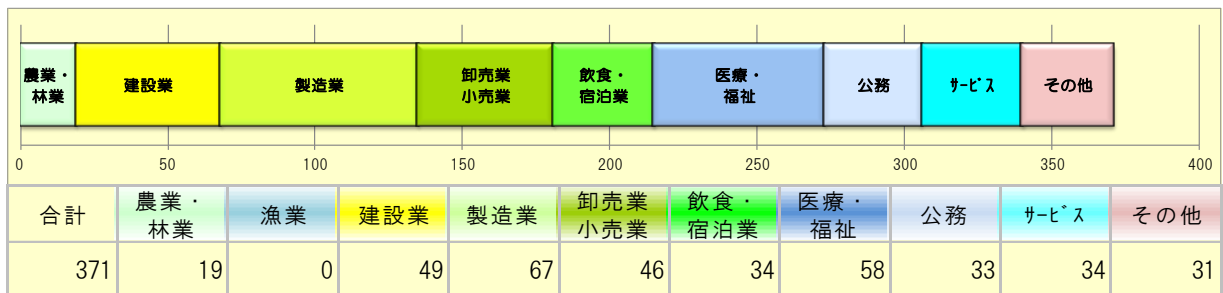


農業科は、1次志望倍率は平成17年度までは1倍を下回り、定員割れが続いていたが、平成18年度以降、1次志望倍率は1倍を超え、また定員割れも減っている。

⑥ 農業科の卒業後の進路状況



<平成25年3月卒業者のうち、就職者の状況>



(進学しかつ就職した者を含む)

就職の割合は減少傾向にあるが50%を超えている。一方、専修学校等進学者、大学等進学者の割合は増加している。

(4) 工業科の状況

① 工業科の概要

工業の各分野に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、現代社会における工業の意義や役割を理解させるとともに、環境及びエネルギーに配慮しつつ、工業技術の諸問題を主体的、合理的に、かつ倫理観をもって解決し、工業と社会の発展を図る創造的な能力と実践的な態度を育てることを目指す学科。

② 高等学校グランドデザイン会議における答申（平成19年10月）

科学技術の高度化、情報化が進展しており、また、本県においては、自動車産業、電子部品等の加工組立産業の集積が進むなど、多様な産業集積が形成されつつある。

このため、工業に関する学科では、工業の各分野に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させるとともに、ものづくり等の実践を通して、環境に配慮しつつ、産業社会の変化に主体的に対応できる人材を育成する必要がある。

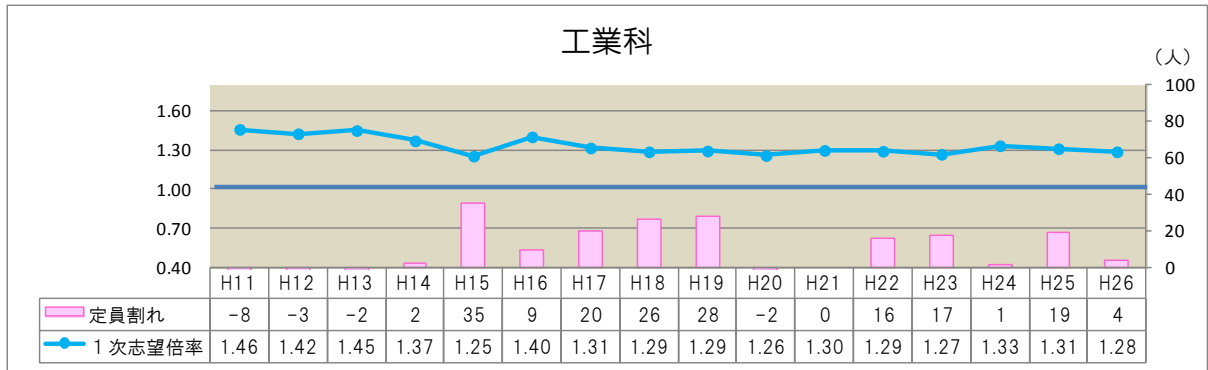
③ 県立高等学校教育改革第3次実施計画における実施状況（H26年度まで）

学 校 名	改編前の学科名	改編後の学科名	実施年度	備 考
青森工業	インテリア科	—	H21	募集停止
	—	都市環境科	H23	土木に関する教育内容のほか、都市環境やエネルギーについて学習
五所川原工業	電子科	—	H23	募集停止
弘前工業	電子機械科	—	H25	募集停止
十和田工業	機械科	機械・エネルギー科	H23	機械に関する教育内容のほか、電気自動車や太陽光など環境やエネルギーについて学習
むつ工業	設備システム科	設備・エネルギー科	H23	各種設備機器、配管等に関する教育内容のほか、環境やエネルギー全般について学習
八戸工業	工業化学科	—	H21	募集停止
	土木科	土木建築科	H25	土木コースと建築コースを設置
南部工業	建築科	—	H25	募集停止（H26年度末閉校）
	設備システム科			

④ 平成26年度現在の設置状況

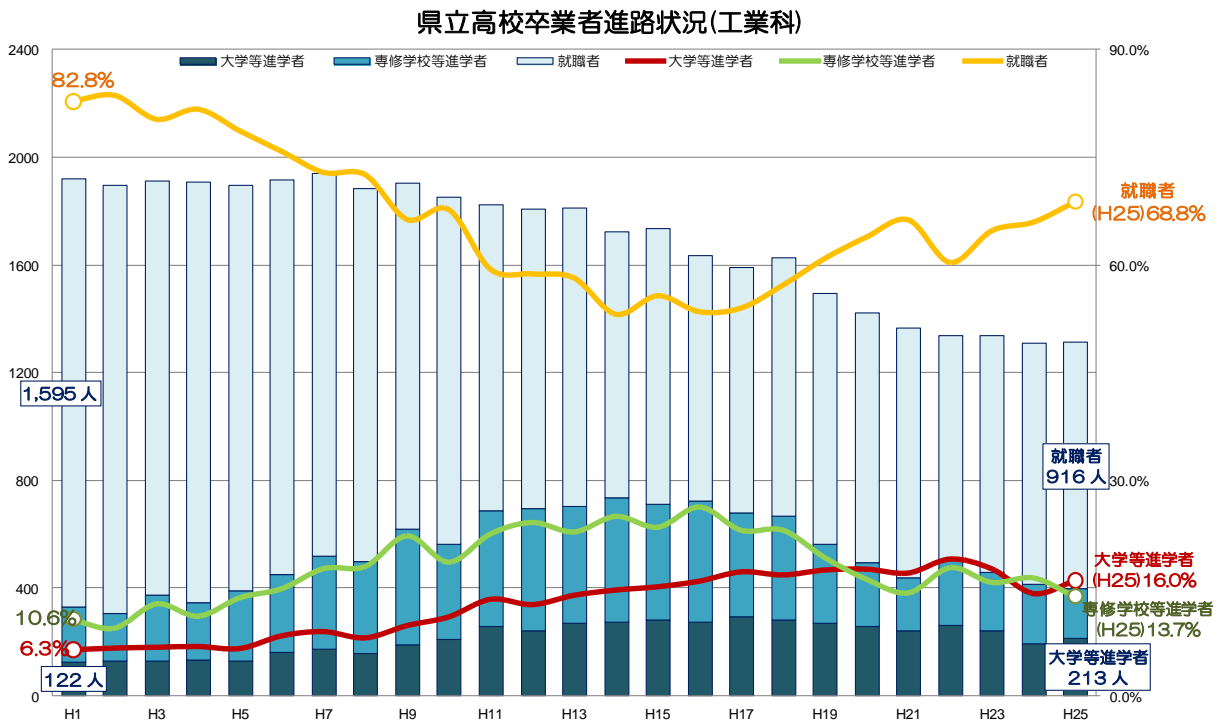
東青	西北	中南	上北	下北	三八
青森工業	五所川原工業	弘前工業	十和田工業	むつ工業	八戸工業
機械科	機械科	機械科	機械・エネルギー科	機械科	機械科
電子機械科	電子機械科	電気科	電子機械科	電子機械科	電子機械科
電気科	電気科	電子科	電気科	電気科	電気科
電子科	情報技術科	情報技術科	電子科	電子科	電子科
情報技術科		土木科	建築科	設備・エネルギー科	情報技術科
建築科		建築科			土木建築科
都市環境科		インテリア科			土木コース
					建築コース
					材料技術科
					南部工業
					建築科
					設備システム科

⑤ 工業科の志望状況

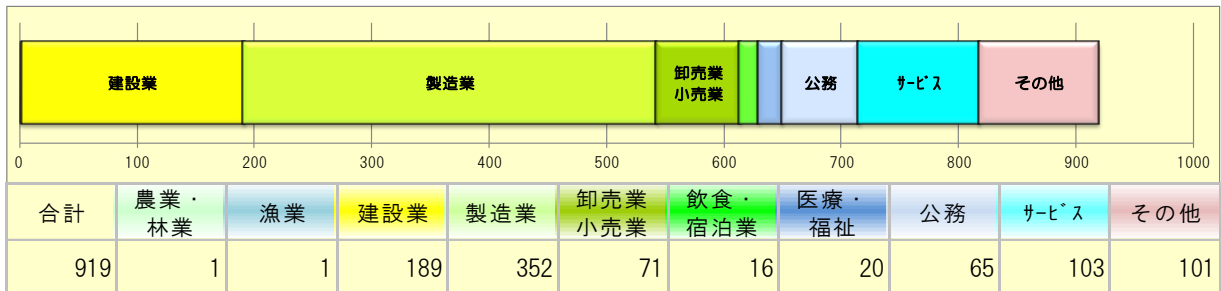


工業科の1次志望倍率は毎年1倍を越えており、定員割れは、近年では少なくなってきた。

⑥ 工業科の卒業後の進路状況



<平成25年3月卒業者のうち、就職者の状況>



(進学しかつ就職した者を含む)

就職の割合は一時期減少していったものの、近年は増加傾向にある。また、専修学校等進学者の割合は減少しているが、大学等進学者は一定割合を維持している。就職先は、建設業、製造業が多い。

(5) 商業科の状況

① 商業科の概要

商業の各分野に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、ビジネスの意義や役割を理解させるとともに、ビジネスの諸活動を主体的、合理的に、かつ倫理観をもって行い、経済社会の発展を図る創造的な能力と実践的な態度を育てることを目指す学科。

② 高等学校グランドデザイン会議における答申（平成19年10月）

ビジネスの国際化、情報化、サービス産業の拡大等が進展してきている。
このため、商業に関する学科では、商業の各分野に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させるとともに、実践的なコミュニケーション能力、情報活用能力及び経理・経営管理能力等の基礎を身につけさせ、ビジネスに関する諸活動に主体的に対応できる人材を育成する必要がある。

③ 県立高等学校教育改革第3次実施計画における実施状況（H26年度まで）

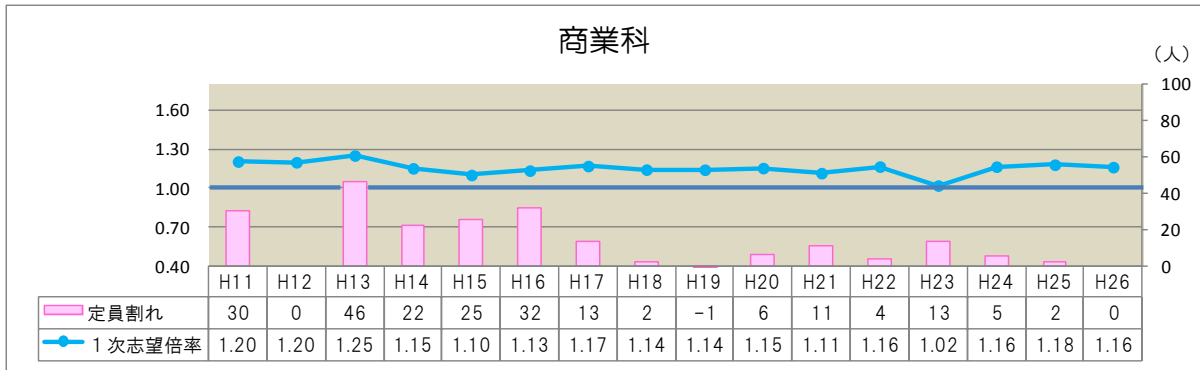
学校名	改編前の学科名	改編後の学科名	実施年度	備考
青森商業	会計科	—	H22	商業科に転換
三沢商業	流通経済科	—	H22	商業科に転換
浪岡	商業科	—	H25	募集停止
百石	商業科	—	H24	募集停止
三戸	商業科	—	H24	募集停止

※青森商業高校、黒石商業高校、三沢商業高校の3校では、平成22年度から、商業科と情報処理科でくり募集を実施。

④ 平成26年度現在の設置状況

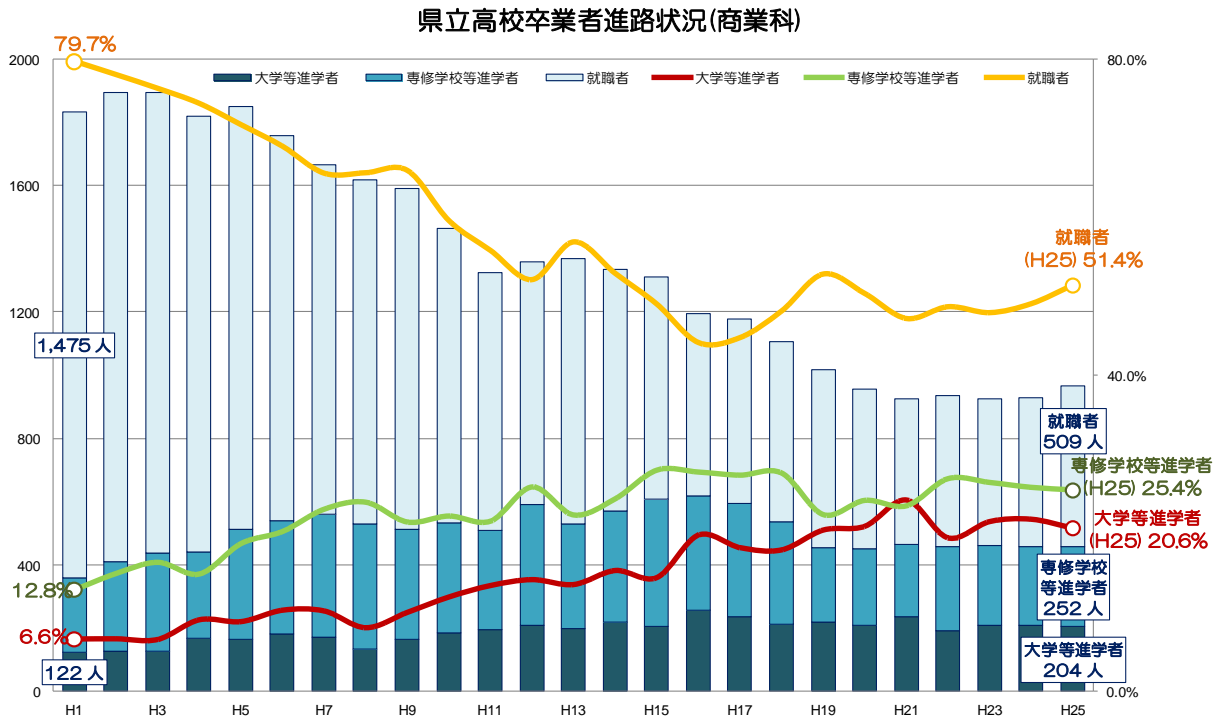
東青	西北	中南	上北	下北	三八
青森商業		弘前実業	十和田西		八戸商業
商業科		商業科	観光科		商業科
情報処理科		情報処理科	三沢商業		国際経済科
		黒石商業	商業科		情報処理科
		商業科	情報処理科		
		情報処理科			
		情報デザイン科			

⑤ 商業科の志望状況

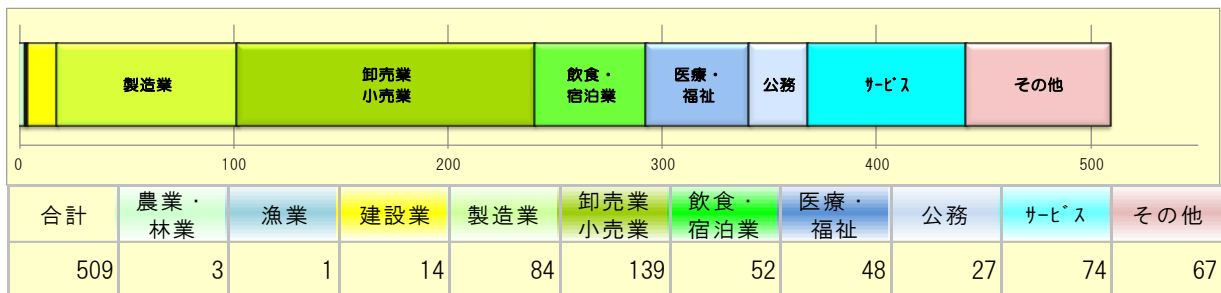


商業科の1次志望倍率は毎年1倍を越えており、定員割れは、近年では少なくなってきた。

⑥ 商業科の卒業後の進路状況



<平成25年3月卒業者のうち、就職者の状況>



就職の割合は一時期減少していったものの、近年は50%程度となっている。また、専修学校等進学者、大学等進学者は一定割合を維持している。

(6) 水産科の状況

① 水産科の概要

水産や海洋の各分野における基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、水産業及び海洋関連産業の意義や役割を理解させるとともに、水産や海洋に関する諸課題を主体的、合理的に、かつ倫理観をもって解決し、持続的かつ安定的な水産業及び海洋関連産業と社会の発展を図る創造的な能力と実践的な態度を育てることを目指す学科。

② 高等学校グランドデザイン会議における答申（平成19年10月）

水産技術の高度化、水産物流通の国際化、作り育てる漁業の拡大等、海を取り巻く産業が変化してきている。

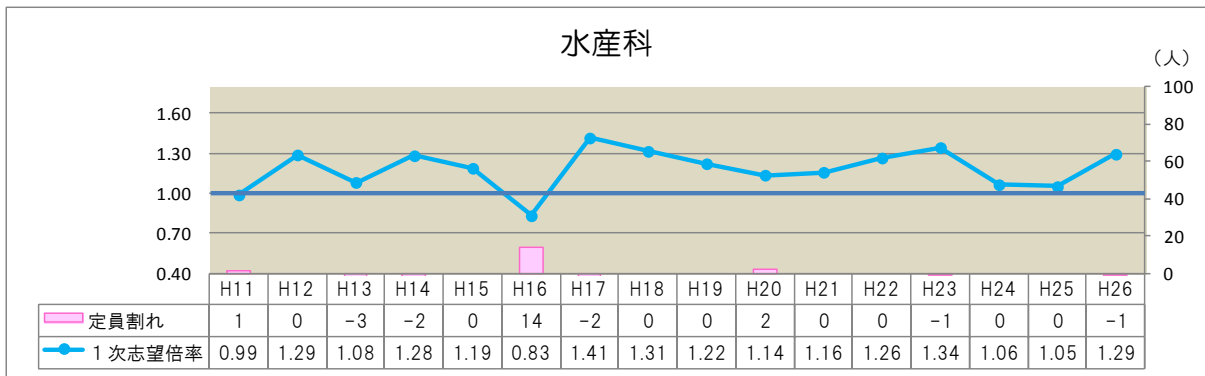
このため、水産に関する学科では、水産や海洋の各分野における生産、流通、環境保全などに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させるとともに、本県における栽培漁業や養殖業などの水産資源の保持・活用に関する学習内容の充実を図り、地域の水産業の発展に貢献できる人材を育成する必要がある。

③ 県立高等学校教育改革第3次実施計画における実施状況（H26年度まで） （なし）

④ 平成26年度現在の設置状況

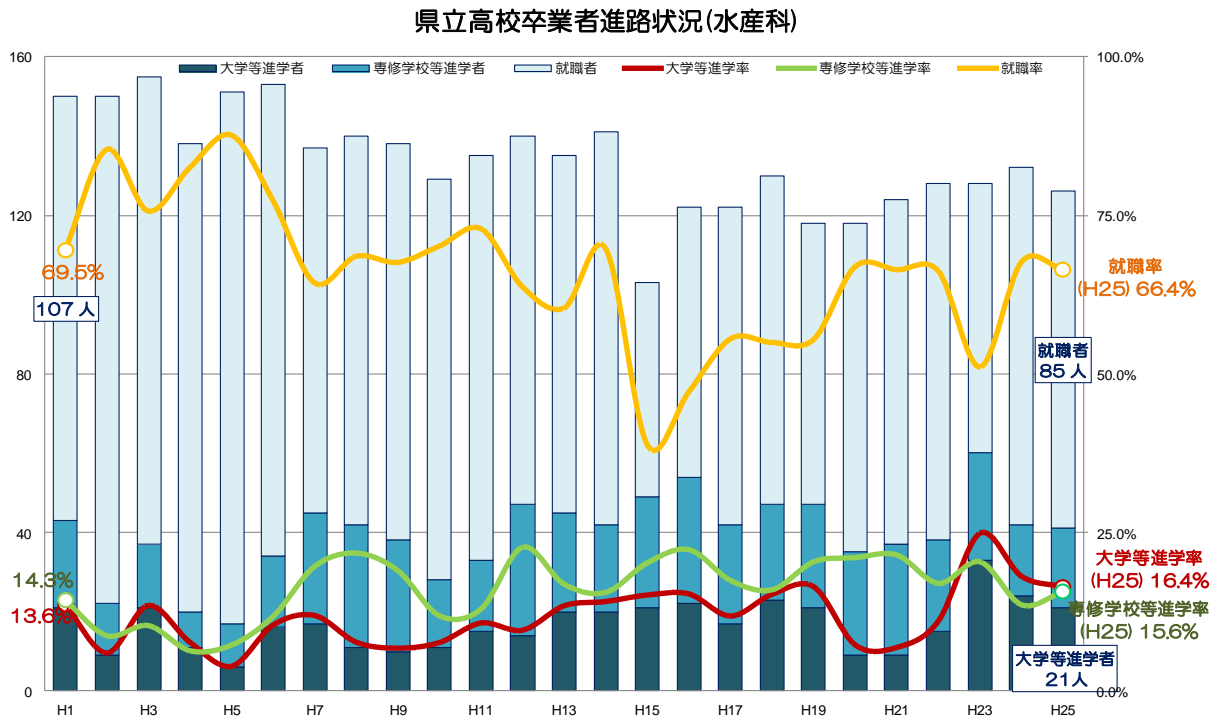
東青	西北	中南	上北	下北	三八
					八戸水産
					海洋生産科
					水産食品科
					水産工学科
					情報通信科
					（専攻科設置）

⑤ 水産科の志望状況



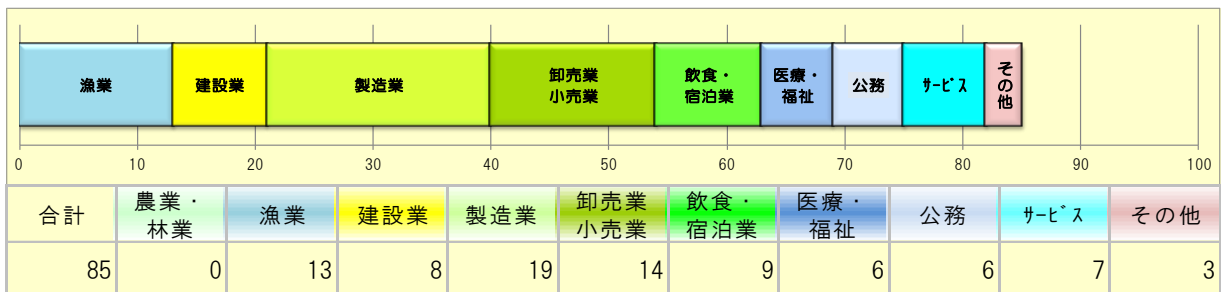
水産科の1次志望倍率は毎年1倍を越えており、定員割れがない状態が続いている。

⑥ 水産科の卒業後の進路状況



＜平成25年3月卒業者のうち、就職者の状況＞

(人)



就職の割合は一時期減少していったものの、近年は60%程度となっている。就職先は漁業を含め、多様となっている。

(7) 家庭科の状況

① 家庭科の概要

家庭の生活にかかわる産業に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、生活産業の社会的な意義や役割を理解させるとともに、生活産業を取り巻く諸課題を主体的、合理的に、かつ倫理観をもって解決し、生活の質の向上と社会の発展を図る創造的な能力と実践的な態度を育てることを目指す学科。

② 高等学校グランドデザイン会議における答申（平成19年10月）

少子高齢化、生活様式の多様化、生活関連産業の拡大等が進展してきている。

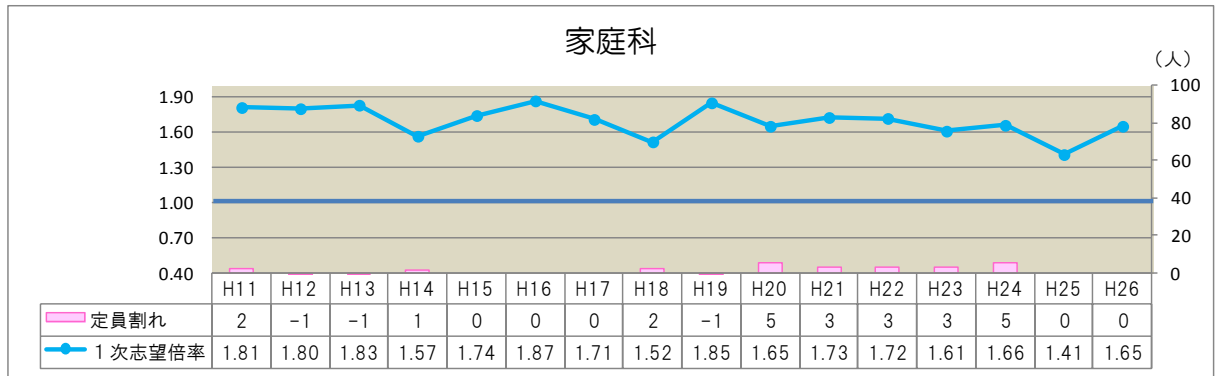
このため、家庭に関する学科では、家庭の各分野に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させるとともに、生活関連産業の高度化、サービス化に対応し、家庭の各分野に関する諸課題を主体的、合理的に解決できる人材を育成する必要がある。

③ 県立高等学校教育改革第3次実施計画における実施状況（H26年度まで） （なし）

④ 平成26年度現在の設置状況

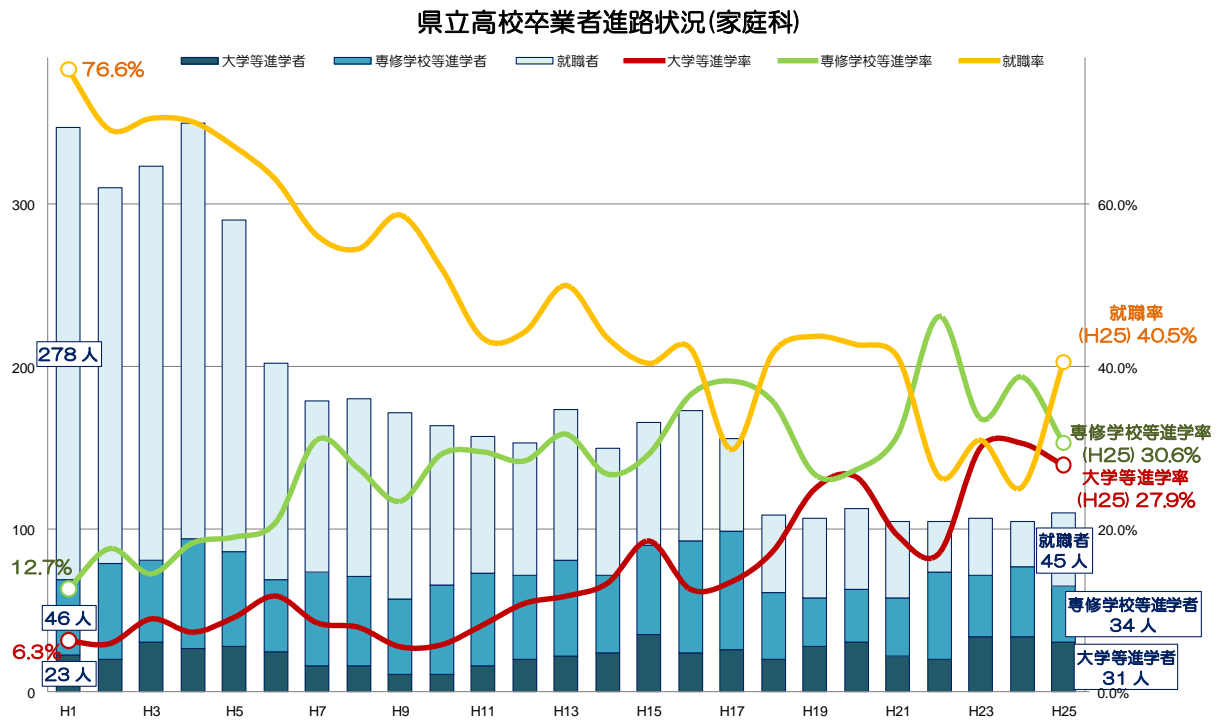
東青	西北	中南	上北	下北	三八
		弘前実業	百石		
		家庭科学科	食物調理科		
		服飾デザイン科			

⑤ 家庭科の志望状況

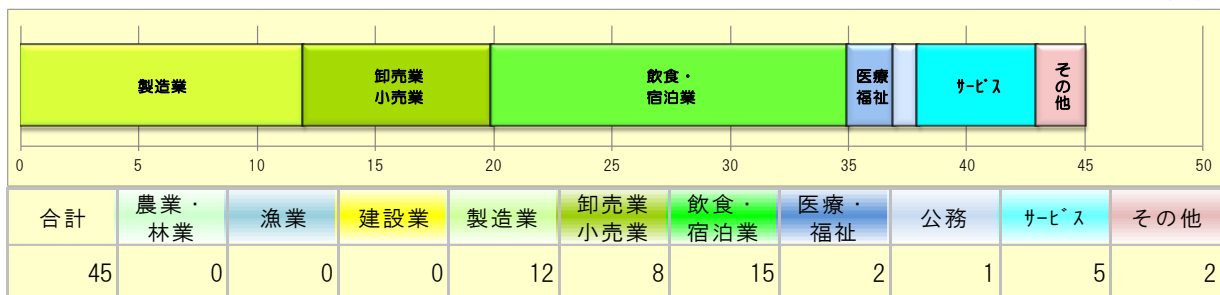


家庭科の1次志望倍率は毎年1倍を越えており、定員割れがほとんどない状態が続いている。

⑥ 家庭科の卒業後の進路状況



<平成25年3月卒業者のうち、就職者の状況>



就職の割合は70%台だったものが徐々に減少し、現在は40%程度となっている。また、大学等進学、専修学校等進学の割合は増加しており、多様な進路状況となっている。

(8) 看護科の状況

① 看護科の概要

看護に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、看護の本質と社会的な意義を理解させるとともに、国民の健康の保持増進に寄与する能力と態度を育てることを目指す学科。

② 高等学校グランドデザイン会議における答申（平成19年10月）

医療サービスの高度化・多様化が進展し、看護に対する社会的要請が増大している。

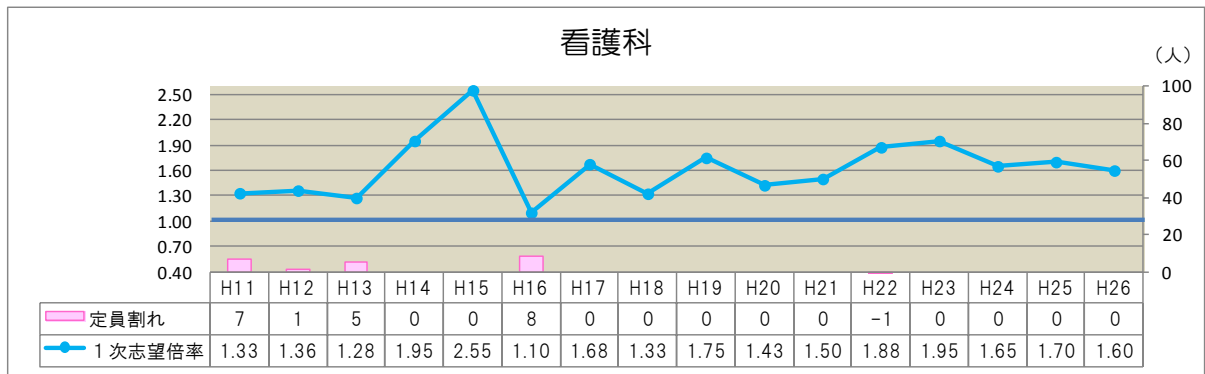
このため、看護に関する学科では、看護の各分野に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させるとともに、国民の健康の保持増進に寄与し、地域医療に貢献できる人材を育成する必要がある。

③ 県立高等学校教育改革第3次実施計画における実施状況（H26年度まで） （なし）

④ 平成26年度現在の設置状況

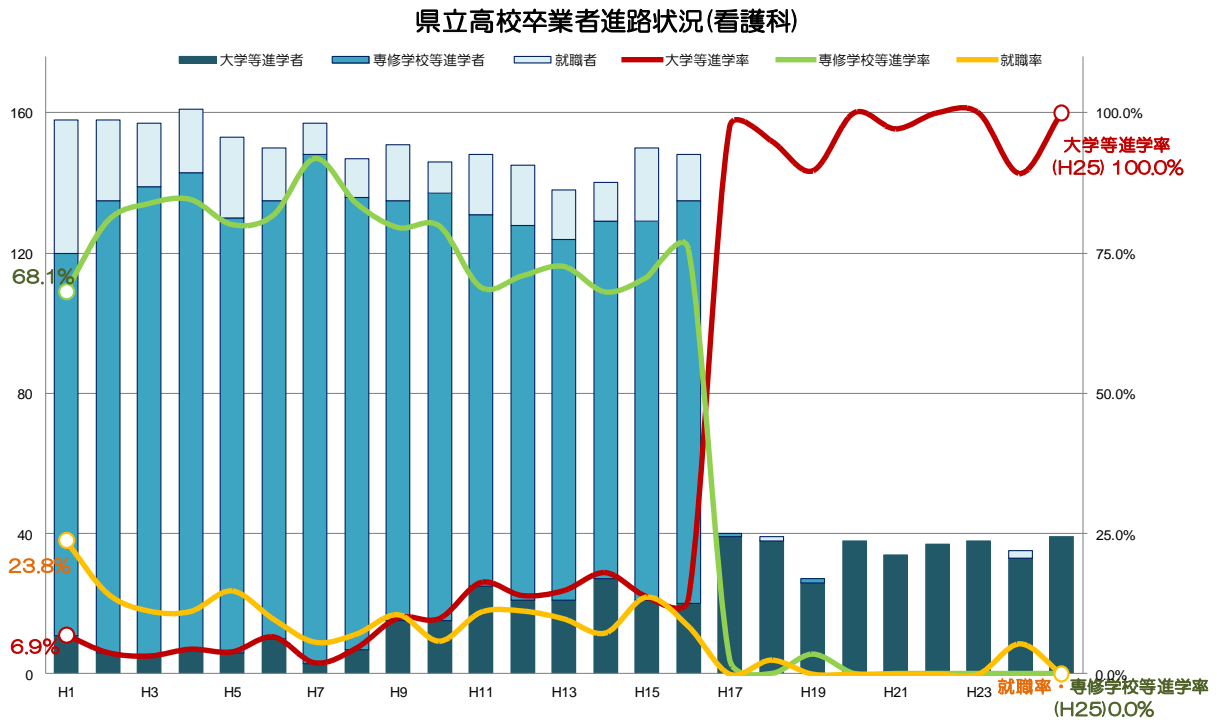
東青	西北	中南	上北	下北	三八
		黒石			
		看護科			
		（専攻科設置）			

⑤ 看護科の志望状況



看護科の1次志望倍率は毎年1倍を超えており、定員割れがない状態が続いている。

⑥ 看護科の卒業後の進路状況



看護師養成に関する国の制度改正により、平成14年度入学生から5年一貫教育による看護師養成課程を黒石高校で開始。平成17年3月の進路状況からは、黒石高校看護科のみの卒業生となっており、そのほとんどが同校専攻科へ進学している。

<参考：平成25年3月専攻科卒業者の進路状況>



3 総合学科 [全日制]

(1) 総合学科の概要

普通教育を主とする学科である「普通科」、専門教育を主とする学科である「専門学科」に並ぶ学科として制度化。

普通教科と専門教科の科目を幅広く開設し、生徒の主体的な選択による学習を通して、将来の生き方や進路に関する自覚を深め、職業観を育成することを目指す学科。

(2) 高等学校グランドデザイン会議における答申（平成19年10月）

総合学科は、生徒の能力・適性、興味・関心に応じて、普通教育と専門教育にわたる幅広い教科・科目の中から選択して学習し、その基礎的・基本的な学力を身につけさせるとともに、自己の進路への自覚を深めさせ、進学・就職に対応できるようにすることをねらいとしている。

これまで、総合学科においては、多様な系列と幅広い選択科目を設定するとともに、キャリアガイダンスを通じて、将来の職業選択を視野に入れた生き方について考えさせるなど教育内容の充実が図られてきた。

また、学科の特性を生かし、生徒の学習ニーズや進路志望に対応できる教育課程の編成や指導方法の工夫が求められており、特に大学等進学志望者の増加に対応した学習指導が重要となってきた。

そこで、次の事項を重視し、再編整備や教育内容の更なる充実を図る必要がある。

- i 生徒の能力・適性、興味・関心、進路志望に対応した系列・選択科目となるよう必要に応じて見直しを行う。
- ii 大学等進学志望者に対応した学習指導及び将来の社会的・職業的な自立を視野に入れた教育活動の一層の充実を図る。
- iii 学科の特性や教育効果について、中学生や保護者の理解が得られるよう十分な情報提供に努める。

(3) 県立高等学校教育改革第3次実施計画における基本的な考え方

ア 生徒の能力・適性、興味・関心、進路志望に対応した系列・選択科目となるよう必要に応じて見直しを検討します。

イ 進路志望の達成を目指した学習指導及び将来の社会的・職業的な自立を視野に入れた教育活動の充実を図ります。

(4) 総合学科の状況

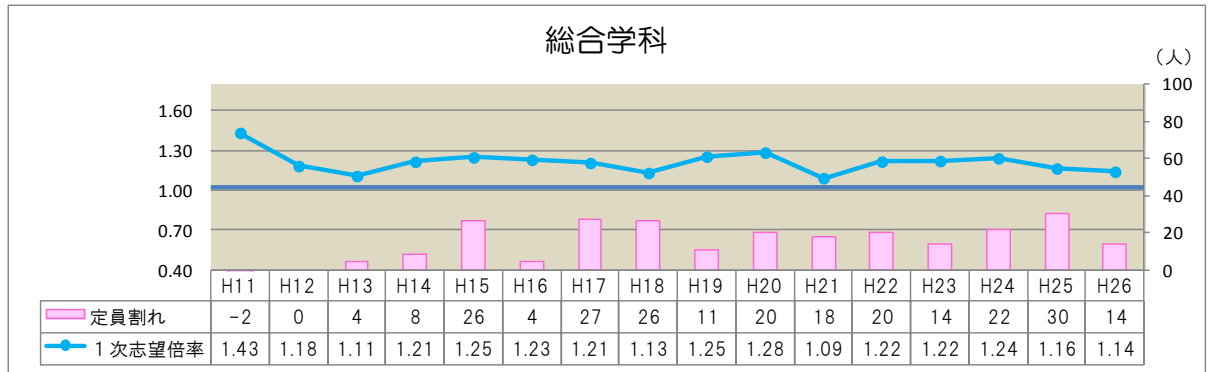
① 県立高等学校教育改革第3次実施計画における実施状況 (H26年度まで)

学校名	見直し前の系列	見直し後の系列	実施年度	備考
青森中央	人文科学	人文科学		
	自然科学	自然科学		
	健康福祉	生活科学	H23	生活科学系列の中で福祉や看護を学習
	生活科学			
	リビングデザイン	—	H23	廃止
	情報ビジネス	情報ビジネス		
	文化観光	—	H23	廃止
—	美術	H23	新設	
木造	人文科学	人文科学		
	自然科学	自然科学		
	社会・経済	—	H24	廃止
	人間・福祉	—	H24	廃止
	流通ビジネス	流通ビジネス		
	情報システム	情報システム		
木造 深浦校舎	人文社会	人文社会		
	流通ビジネス	流通ビジネス		
尾上総合	人文科学	—	H23	募集停止 (H24年度末全日制閉課程)
	エコロジー			
	マルチメディア			
	地域文化			
七戸	人文科学	人文科学		
	自然科学	自然科学		
	情報ビジネス	情報ビジネス		
	食品科学	食品科学		
	福祉健康	福祉健康		
大湊	人文科学	人文科学		
	自然科学	自然科学		
	介護福祉	健康福祉	H21	健康福祉系列の中で、福祉、家庭、体育を学習
	スポーツ			
	情報表現	情報ビジネス	H21	情報ビジネス系列の中で、情報、商業を学習

② 平成26年度現在の設置状況

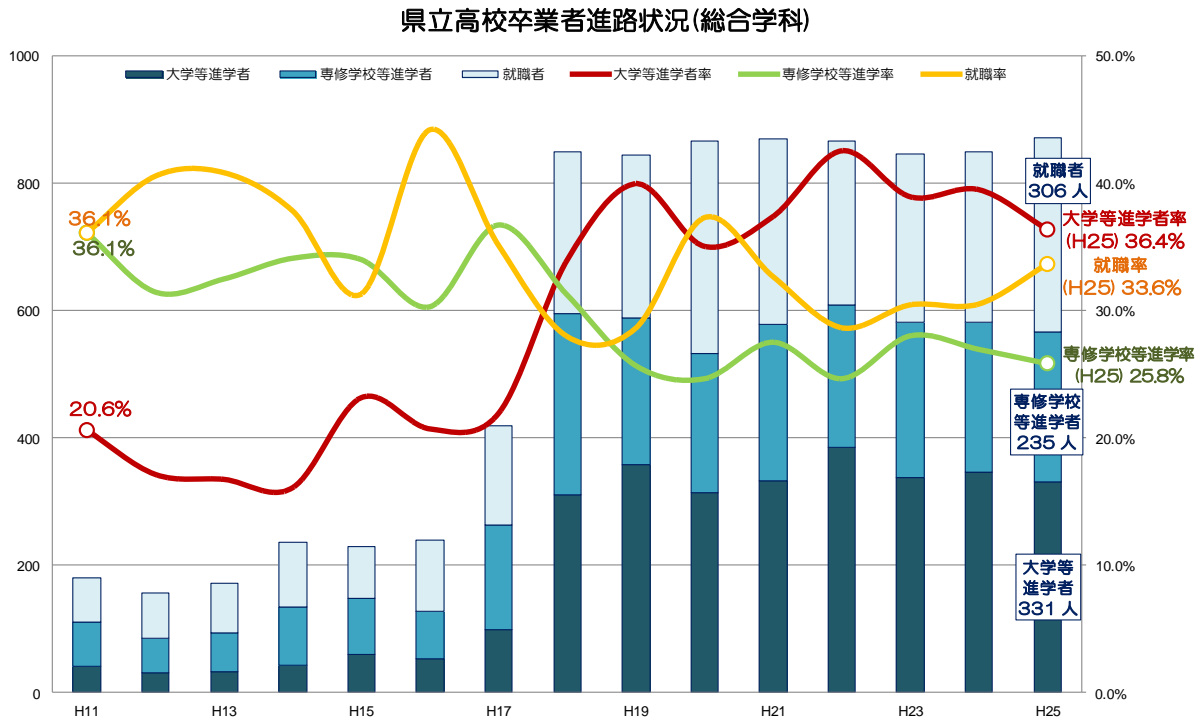
東青	西北	中南	上北	下北	三八
青森中央	木造 木造・深浦		七戸	大湊	

③ 総合学科の志望状況

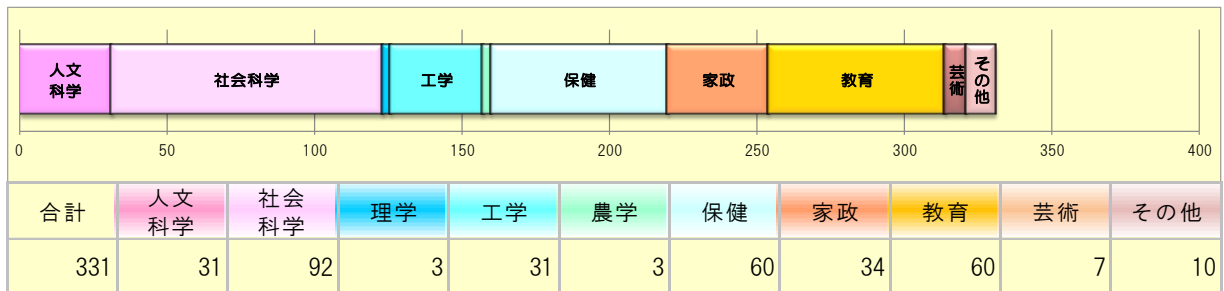


総合学科の1次志望倍率は毎年1倍を越えている。また、町村部の学校等において定員割れがある状況が続いている。

④ 総合学科の卒業後の進路状況



<平成25年3月卒業者のうち、大学等進学者の状況>



総合学科では、大学等進学者率、就職率はいずれも35%程度、専修学校等進学者率は25%程度となっており、多様な進路状況となっている。

4 定時制課程・通信制課程

(1) 高等学校グランドデザイン会議における答申（平成19年10月）

現在の定時制課程及び通信制課程の果たす役割は多岐にわたり、働きながら学ぶ生徒を支援する従来からの教育に加え、様々な入学動機や学習歴を持つ生徒及び経済面・健康面・人間関係面などで全日制課程での学習が難しい生徒に学習の機会を提供する場として、また、生涯学習の場としても大切な役割を担ってきた。

しかしながら、今後、中学校卒業予定者数の減少が見込まれることから、志願・入学状況などを考慮したうえで、定時制課程の配置について見直しを検討する必要がある。また、工業高校の定時制課程については、産業構造や就業構造が変化していることから、普通科の選択科目の中で職業に関する科目を学習する等の方法を考慮したうえで、廃止も含め検討する必要がある。

見直しに当たっては、年度ごとの志願者数及び入学者数の推移は一定していないことから、一律の基準を設けるのではなく、教育の機会均等の観点で、生徒の通学状況等を考慮し、6地区に普通科の定時制課程を置く学校を各1校配置することを基本とすることが望ましい。

なお、青森市及び八戸市に設置している定時制独立校については、より多様な教育の機会を提供するために午前・午後・夜間の3部制を実施しているところであり、弘前市においても、同様に多様な教育の機会を提供できるよう、3部制の定時制独立校の設置を検討する必要がある。

本県における通信制課程については、本校を中心に2カ所の分室及び5校の協力校が、生徒に対する添削指導、面接指導などについてきめ細かに連携・協力する体制となっており、当面、この体制を維持しながら、さらに学ぶ意欲に応じていく必要がある。

(2) 県立高等学校教育改革第3次実施計画における基本的な考え方

ア 定時制課程については、教育の機会均等の観点から、6地区に普通科の定時制課程を置く学校を各1校配置することを基本とします。

イ 工業高校の定時制課程については、産業構造や就業構造が変化していることから、普通科の選択科目の中で職業に関する科目を学習する等の方法を考慮した上で、見直しを検討します。

ウ 多様な教育の機会を提供するために、全県的なバランスを考慮しつつ、3部制の定時制独立校の中南地区への設置を推進します。

エ 通信制課程については、生徒の多様な学習ニーズに応えるため、望ましい指導体制の在り方について検討します。

(3) 定時制課程の状況

① 定時制課程の概要

中学校を卒業して勤務に従事するなど様々な理由で全日制の高等学校に進学できない青少年に対して高等学校教育を受ける機会を与えるため創設された制度。近年においては、全日制課程からの転・編入学者や過去に高等学校教育を受けることができなかった者など多様な入学動機や学習歴を持つ生徒が増えてきている。

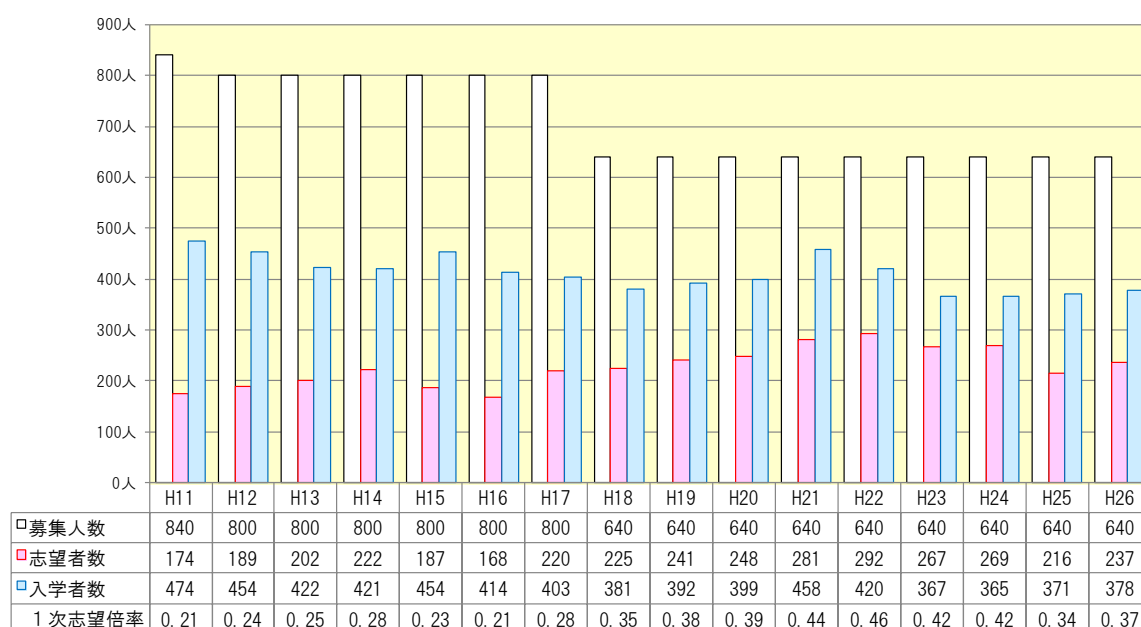
② 県立高等学校教育改革第3次実施計画における実施状況（H26年度まで）

学 校 名	見直し前の学科	見直し後の学科	実施年度	備 考
弘前中央	普通（夜間）	—	H25	募集停止
黒石	普通（夜間）	—	H25	募集停止
尾上総合	普通（昼間）	—	H25	定時制3部制総合学科に転換
	—	総合（Ⅰ部）		
	—	総合（Ⅱ部）		
	—	総合（Ⅲ部）		

③ 平成26年度現在の設置状況

		東青	西北	中南	上北	下北	三八
3部制	普通科	北斗					八戸中央
	総合学科			尾上総合			
夜間	普通科		五所川原		三沢	田名部	
	工業技術科	青森工業		弘前工業			八戸工業

④ 定時制課程の志望状況



定時制課程は、1次志望倍率は低いものの、平成11年以降、志望者数は微増、入学者数も一定程度を維持している。

午前部（Ⅰ部）、午後部（Ⅱ部）は、1次志望倍率も高く、定員割れもほとんどない状況にある。

(4) 通信制課程の状況

① 通信制課程の概要

様々な事情により、全日制・定時制の高等学校に通学することができない青少年に対して、通信の方法により高等学校教育を受ける機会を与える制度。

近年においては、全日制課程からの転・編入学者や過去に高等学校教育を受けることができなかった者など多様な入学動機や学習歴を持つ生徒が増えてきている。

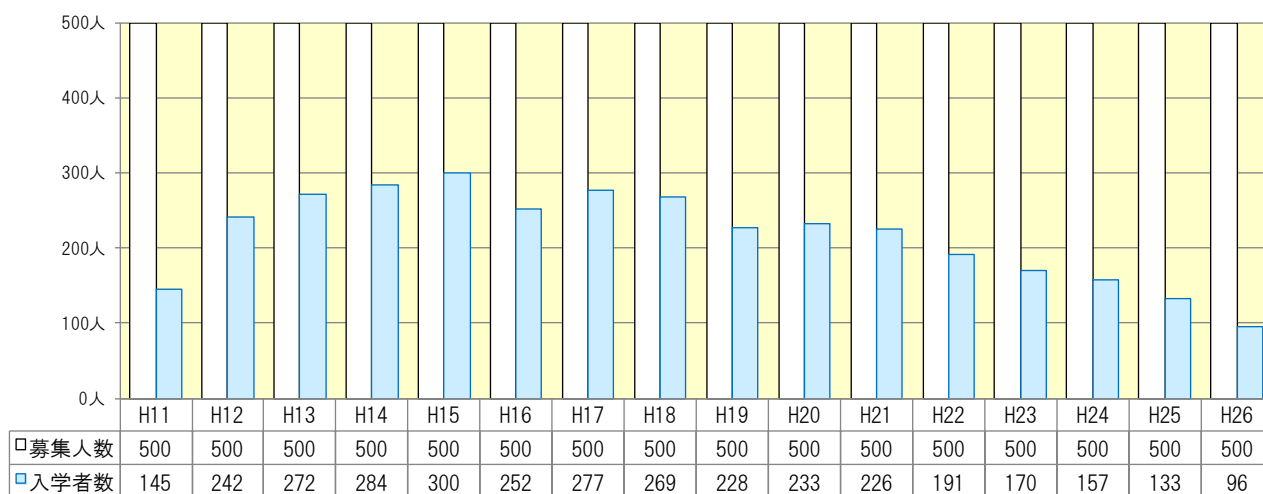
② 県立高等学校教育改革第3次実施計画における実施状況（H26年度まで）

学 校 名	見直し前の学科 (募集人数)	見直し後の学科 (募集人数)	実施年度	備 考
北斗	普通 (500人)	普通 (200人)	H25	尾上総合高等学校及び八戸中央高等学校に設置している北斗高等学校通信制課程の分室を H25 からそれぞれ尾上総合高等学校通信制課程、八戸中央高等学校通信制課程に再編
尾上総合	—	普通 (150人)		
八戸中央	—	普通 (150人)		

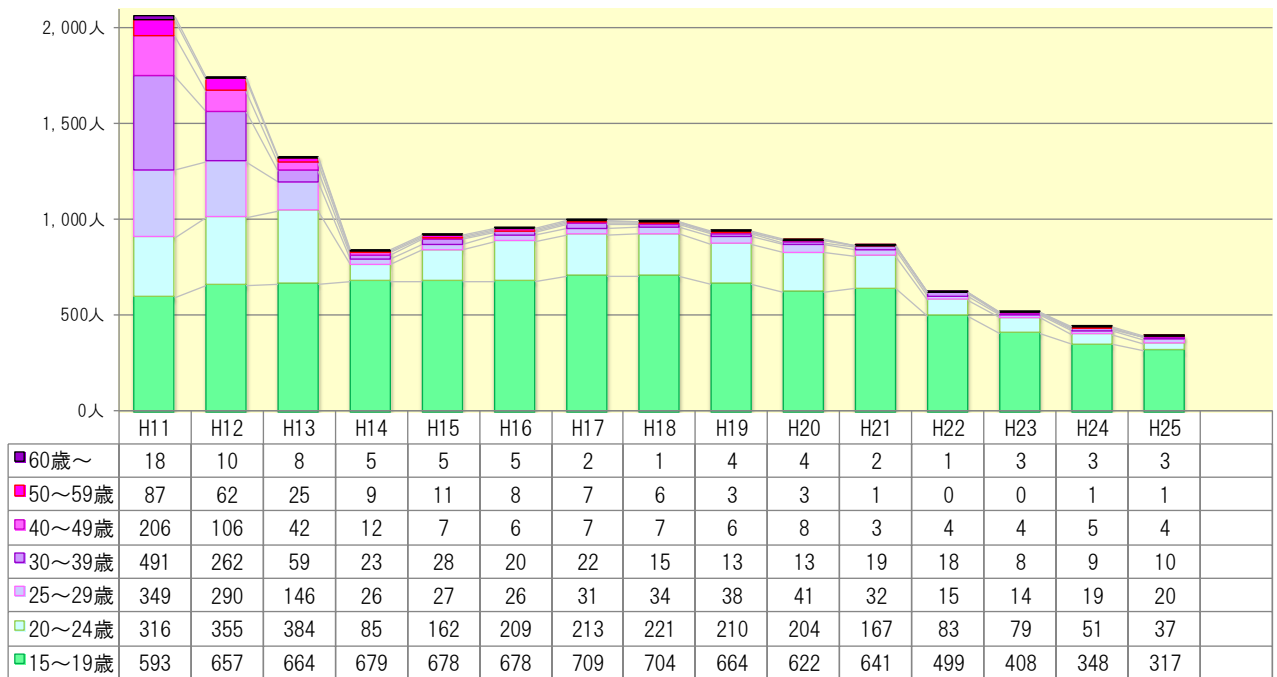
③ 平成26年度現在の設置状況

	東青	西北	中南	上北	下北	三八
普通科	北斗		尾上総合			八戸中央

④ 通信制課程の入学状況



(参考：年齢別在籍生徒数の推移)



入学者数は減少傾向にあるものの、中学校卒業者の進路の一つとして重要な役割を担っている。

5 普通科及び普通科系の専門学科、職業教育を主とする専門学科、総合学科の割合（学科構成）について〔全日制〕

（1）高等学校グランドデザイン会議における答申（平成19年10月）

県全体として見ると、全国に比して職業学科及び総合学科の割合が高くなってきているが、中学生及び保護者には依然として普通科への志向がみられることなどを考慮し、普通科等の比率を高めることが望ましい。

なお、本県では、県立高等学校の募集人員を定める際に、生徒の通学状況などを勘案して県内を6地区（東青・西北五・中弘南黒・上十三・下北むつ・三八）に分けているが、各地区における学科等の募集割合は、地域の産業構造の特性や学科設置の経緯などにより異なっている。従って、これらについて十分に配慮したうえで、職業学科の統合・再編や、総合学科の系列の見直しなどを進める必要がある。

（2）県立高等学校教育改革第3次実施計画における基本的な考え方

（2）学校配置の方向性

① 基本的な考え方

ア 望ましい学校規模になるよう6地区（東青・西北・中南・上北・下北・三八）ごとに、中学校卒業予定者数の推移、社会や生徒のニーズに対応した普通科等・職業学科・総合学科の割合という観点から計画的に統合等を進めます。

イ （略）

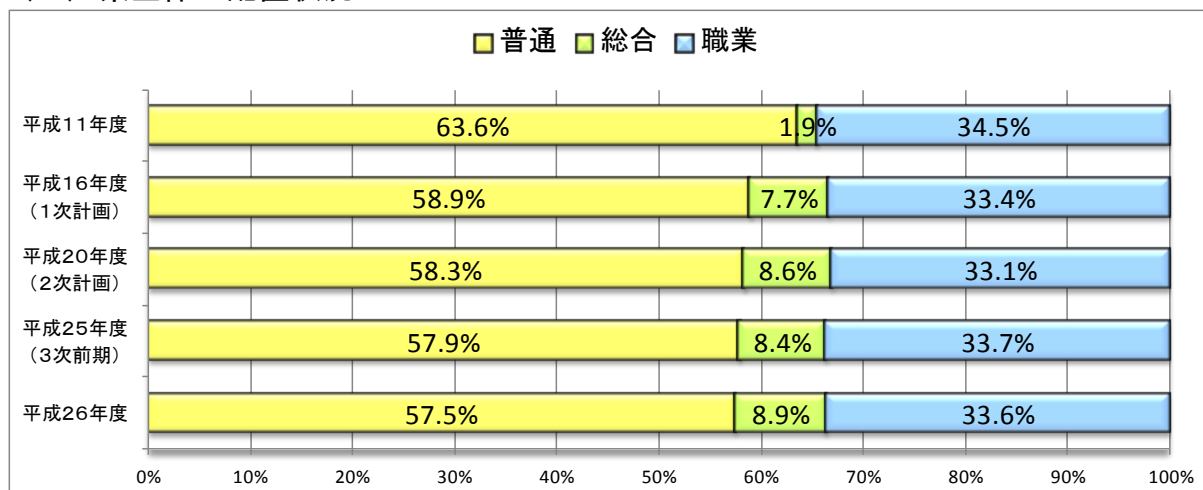
ウ 本県の産業動向や地域が求める人材育成等に対応した学校配置を進めます。

② 地区ごとの学校配置

ア 各地区の普通科等・職業学科・総合学科の配置割合は、これまで地域の産業構造の特性や学科設置の経緯などにより異なっていることについて十分に配慮します。

イ～ウ（略）

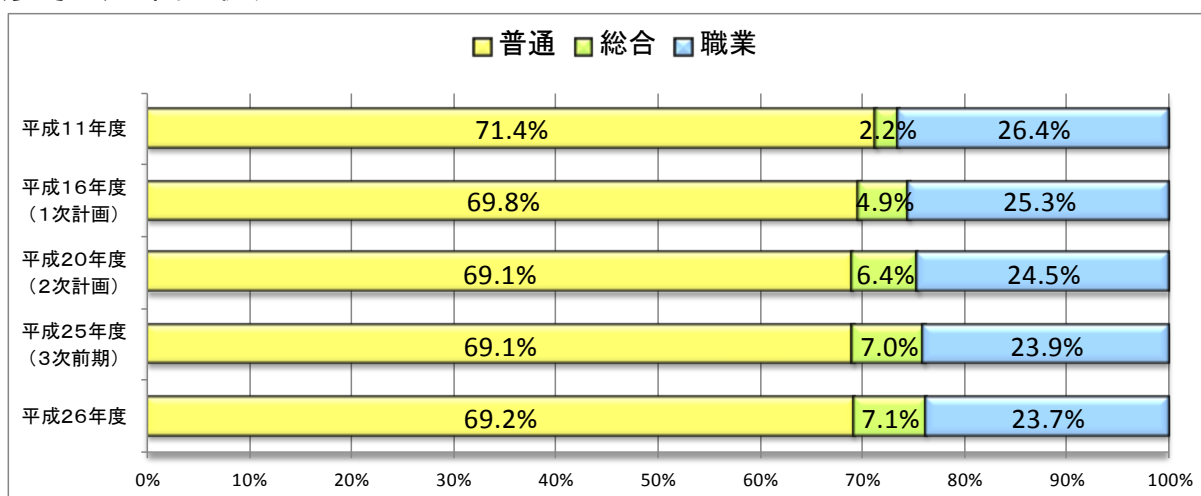
(3) 県全体の配置状況



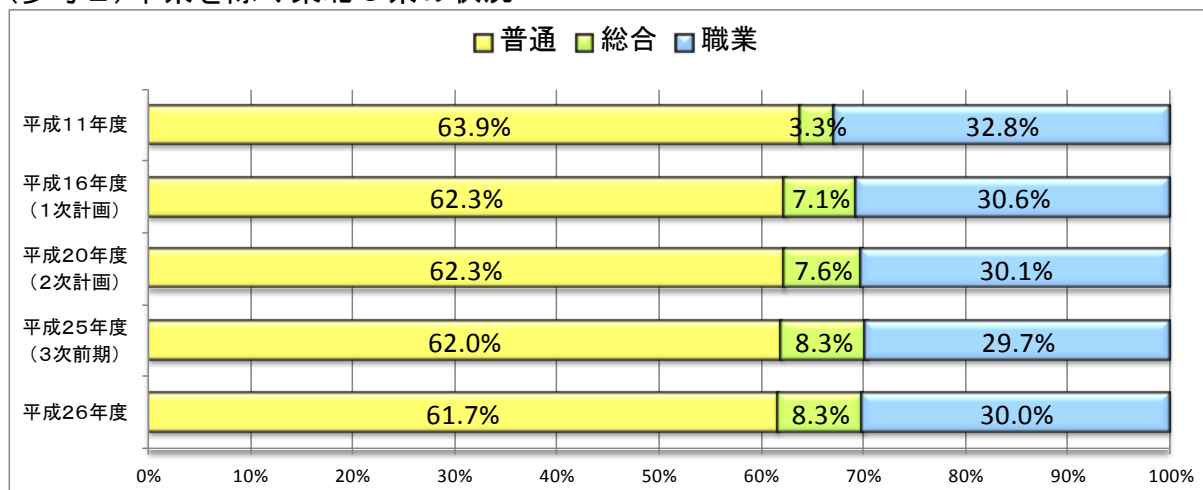
「普通」・・・普通科のほか、理数科、英語科、スポーツ科学科等普通科系の専門学科を含む。
 「総合」・・・総合学科
 「職業」・・・農業、工業、商業、水産、家庭、看護等職業教育を主とする専門学科

普通科等・職業教育を主とする専門学科、総合学科の割合は大きく変動していない。

(参考1) 全国の状況



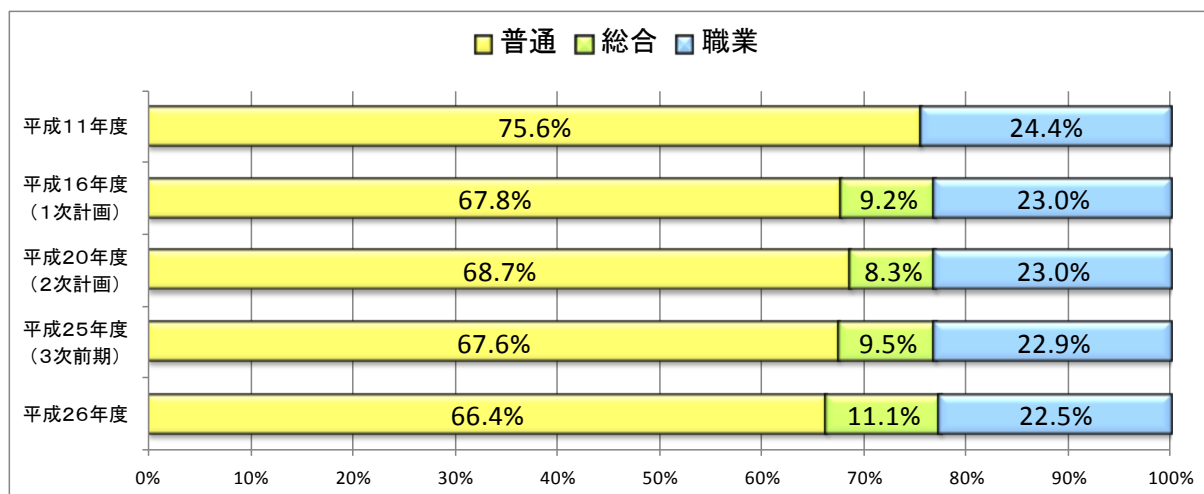
(参考2) 本県を除く東北5県の状況



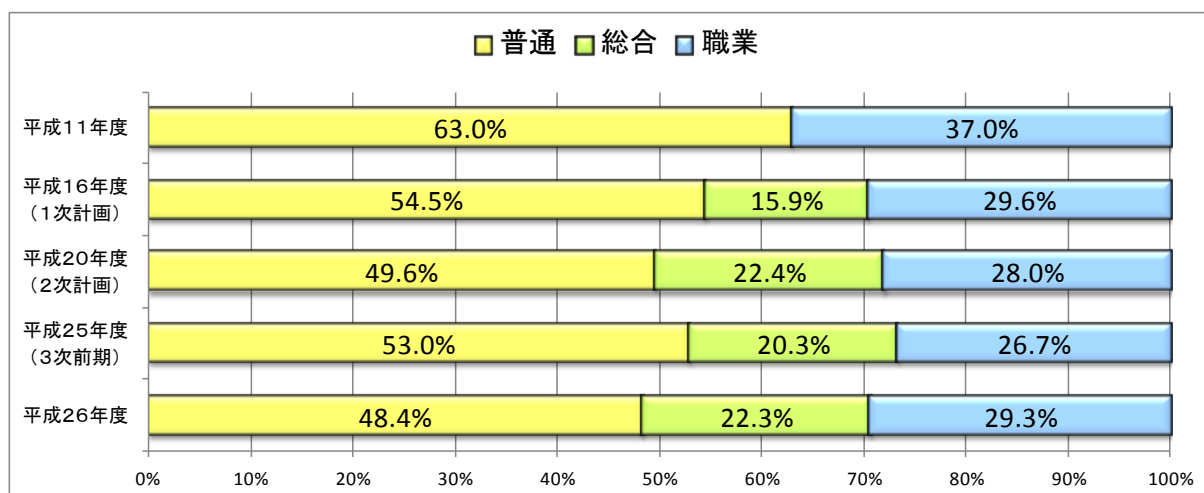
(県教育庁高等学校教育改革推進室調べ)

(4) 各地区の配置状況

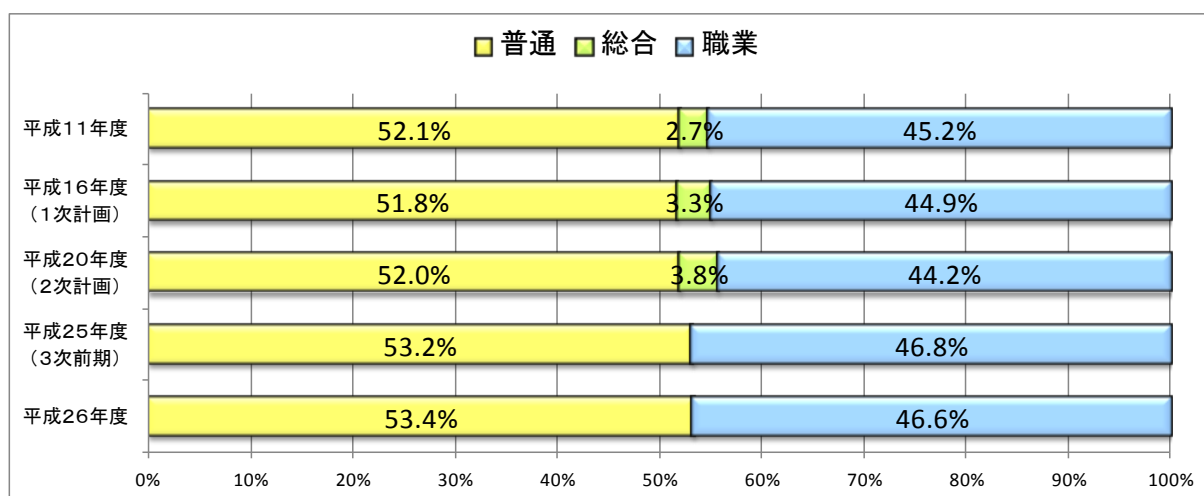
① 東青地区



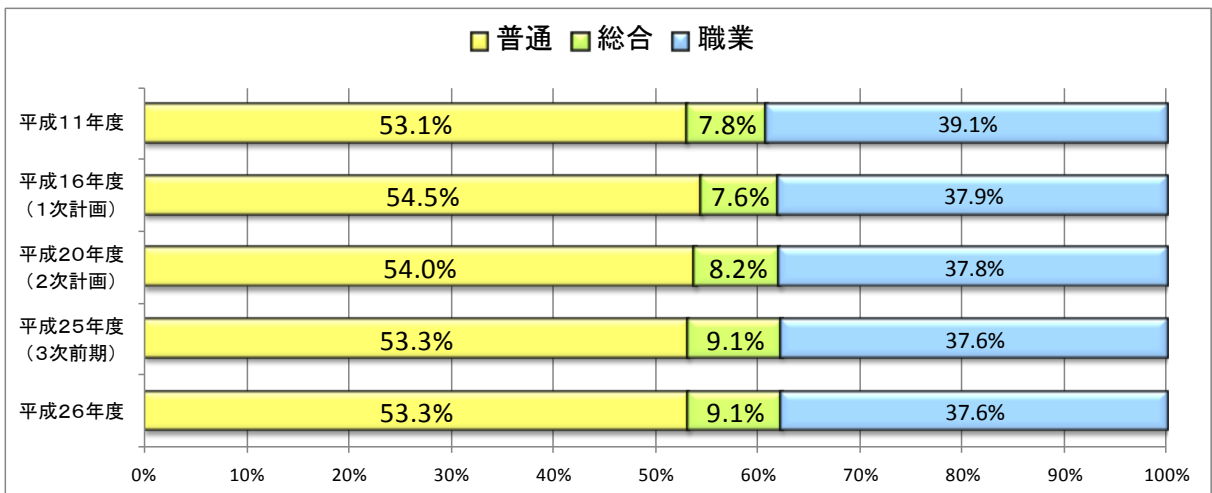
② 西北地区



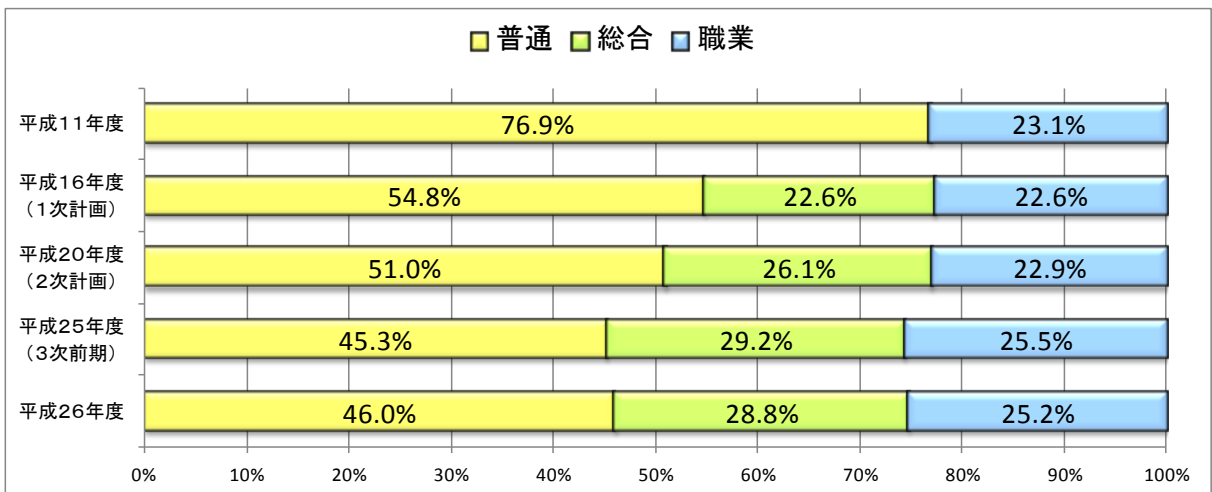
③ 中南地区



④ 上北地区



⑤ 下北地区



⑥ 三八地区

